

白南中だより

教育目標 創造 挑戦
育てる力 主体性
たくましさ
心の回復力
令和5年3月8日(水)
新潟市立白南中学校 発行

第20回卒業証書授与式

式 辞

校長 和泉 哲章

本日ここにご来賓の皆様のご臨席をいただき、第20回卒業証書授与式が挙行できますことを皆さんとともに喜びたいと思います。

卒業生のみなさん、卒業おめでとうございます。今、卒業証書を手にして、感慨もひとしおのことと思います。

みなさんが入学した令和2年は、これまで誰も経験したことのない新型コロナウイルスの世界的大流行の始まりでした。これからは「予測困難な時代」と言われますが、まさにそのことを予感させる世界史に刻まれる出来事でした。

入学式には、座席の間隔を大きくあけ、来賓や先輩たちの姿はなく、生徒会長の歓迎の言葉も映像で流されました。当校の入学式の様子は、大きな写真とともに新潟日報で紹介されました。全国一斉休校、分散登校なども経験しました。マスク、手指の消毒、密を避けることが欠かせない日常がやってきました。部活動の大会も中止になり、ろくに部活動をやらないうちに夏を迎えました。日本中で様々な営みが中止に追い込まれました。

私は校長として、本当にこれでいいのか。無難を求めれば、中止の選択だったかもしれません。しかし、生徒にとって今しかないこの時を何とかしたいという強い思いがありました。白南中学校は大規模校と同じような密の状態なのか、地域の感染状況はどうか、様々な視点から検討を重ねました。まずは、感染対策を講じて体育祭を実施。そして9月には、当時の3年生が方面を県内に変更して修学旅行を実施。マスクをしながらの合唱発表も実施しました。修学旅行をどうするか、何度かPTA役員で集まって相談しました。「止める」という意見はありませんでした。どうしたらできるか、ポジティブな話し合いを重ねました。結果として、この3年間で中止した学校行事はありませんでした。また、この3年間で、授業日における休校や学級閉鎖になった日数は、わずか4日でした。市内でも極めて稀なことであり、幸運に恵まれました。しかし、この幸運は、地域、家族を含め、みなさん一人一人が普段から注意し、感染状況が比較的落ち着いたこと、「願い」を共有し、学校も保護者も地域も覚悟を決めて乗り越えてきたことが大きな要因でした。本日出席の「学校運営協議会」の皆様も大きな後押しをしてくださりました。感染状況が悪く、みなさんの理解が得られなかったらできなかったことです。

先日配付された卒業アルバムを見ました。学校行事や日常生活で卒業生のみなさんのキラキラ輝く笑顔や表情にあふれていました。また、先日卒業生一人一人からもらった感謝のメッセージには、コロナ禍の中で様々な学校行事ができたことへの喜びと感謝のことばがたくさんありました。様々な制限の中で、創意工夫しながら、輝きを放ってくれた卒業生のみなさんに改めて感謝したいと思います。本当にありがとう。

私は、この3年間の新型コロナウイルス感染症の大流行の中で考えたことがあります。それは、「予測困難な時代」にあっては、無難な横並びや指示待ちでなく、自分で考え、自ら判断し、行動していくことが大事だということです。もちろん前提には正しい情報が必要です。「自分で考え、自ら行動すること」は、白南中学校区の小・中学校でめざす姿であり、教育目標である「創造・挑戦」の具体的な姿なのです。

陸上競技の元オリンピック選手でスポーツコメンテーターの為末大さんが、ここ30年間の日本社会の停滞について、「日本全体が、『何かあったらどうするんだ症候群』にかかっている。この症候群は、社会に安定と秩序をもたらす代わりに、副作用として、社会の停滞と一人一人の可能性を抑制する。」と言っています。「予測困難な時代」にあっては、何をしたいのか、何のためにするのかを一人一人がよく考え、判断していくことの大切さを語っています。心





配することは、大事なことです。心配しすぎるのはよくありません。大概のことはなんとかあります。失敗したら改めて、またやればいいのです。挑戦に失敗はつきものです。日々、TRY&ERRORの連続です。

白南中学校で出会った人たちの生き方を思い出してください。

医師免許を持ちながらオリンピック選手をめざし、今も挑戦を続ける広田有紀選手。自分で考えることの大切さとともに、困ったときは「心の声を聞け」と語ってくれました。

みなさんの先輩でソプラノ歌手の吉田早穂さん。ソプラノ歌手という夢を実現するため、情熱を絶やさないと、辛いとき諦めない気持ちは情熱で支えられない。夢中になる何かを見つけてほしいと語ってくれました。

そして、三味線プレーヤーの史佳さん。挫折を乗り越え、三味線と共に生きる覚悟をした史佳さんは、自らの夢の実現方法として、決して諦めないこと、努力を続けること、夢を周りに語ることに、この3つができれば、必ずその夢を助けてくれる人が現れると語ってくれました。

夢や希望は大きくなくても、レジリエンスの授業で学んだ自分の強みと弱みをよく理解し、自分らしい夢や希望の実現をめざしてがんばってください。

しかし、頑張りすぎは禁物です。時には、周りの人に助けを求めたり、SOSを出したりするのもこれから生きる大事なことです。

これから卒業生全員が、校区を離れ、校区外の高校へ進学します。みなさんは幼いときから、少人数の中で手厚く守られてきましたが、これからは少し勝手が違うかもしれません。困難にぶつかったり葛藤したりすることもあるでしょう。それは、新しいものの見方や考え方を獲得し、大事な成長するチャンスです。うまく乗り越えてください。みなさんならできます。

今年度は、創立20周年の記念の年でしたが、みなさんが2年生のとき取り組み、現2年生も取り組んだ「大好きにいがた・南区地域福祉アクションプラン実現に向けた取組」は、今年度、文部科学大臣表彰を受けました。創立20周年という記念の年に輝く金字塔を打ち立ててくれました。この学習をとおして、自分たちの住む地域のよさとともに、少子高齢化、人口減少が進む地域の課題に本気に向き合ってきました。これからは、みなさんが地域に誇りを持ち、地域を支える大事な存在として活躍することを願っています。

保護者の皆様、本日はおめでとうございます。卒業生は、コロナ禍の中、本当によくがんばりました。また、1年生からかかわってきた担任はもちろん、教職員全員が愛情をもって大事に育ててまいりました。中学校卒業とはいえまだまだ、家族の支えが必要です。これからもどうぞよろしく願いいたします。これまでのご理解とご支援に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

最後に、卒業生の力強い巣立ちを祝うとともに、これからの健康とさらなる活躍を願って式辞とします。



天候にも恵まれ、厳かの中にも心が熱くなる感動の卒業式となりました。保護者はもちろん、来賓の皆様からもとてもよい卒業式だったという感想が寄せられました。

翌7日(火)には、多くの卒業生が、公立高校の一般入試に臨みました。